

描画テストによる評価

広島大学児童保健学教室

松橋有子

広島大学幼児保健学教室

石川清美、清水凡生

■ はじめに

乳幼児とのふれあい体験学習の前後に描画テストを実施して、体験学習の効果を判定できるかどうかを調べるのが目的である。

■ 研究方法

ふれあい体験に参加した中学3年生85名(女子37名:男子48名)と高校3年生21名(女子)に、体験学習の前後に、B5版白紙を横に使ってHBの鉛筆で、「赤ちゃんのいる家族を想像してその絵を描いてください」と指示し、その描画を比較検討した。

■ 研究結果

合計106枚の描画が集まったが、シャープペンシルで描かれたものなど判定が困難なものが多かったため、今回は全体の印象を比較検討するだけにとどめた。106枚のうち前後どちらか一方しか描かれていないものが、高校生の描画に8枚、中学生の描画に8枚認められたので、除外した。またふざけすぎて判定できないものが中学生男子9名の描画に認められたので、これも除外した。中学生52名(女子27名:男子25名)、高校生11名(女子)の描画を判定した。体験学習の前後で描画にあまり変化のみられなかったものが、中学生16名(女子8名:男子8名)と高校生2名(女子)にみられた。変化のみられたものについて、女子と男子に分けて比較した。

ほとんどの絵がシャープペンシルによって描か

れていたためコピーしても写らなかったため、必ずしも典型的な描画ではないが、①と③の例を図1と図2に示した。図1が中学生男子、図2が中学生女子によるものである。

■ まとめ

中学生・高校生の約75%の描画が、ふれあい体験前に比較して後にはよりポジティブで楽しいも

	全員	女子	男子
①前には子どもだけだったのが、後には子どもをしっかり抱いていた	24(29.6%)	16(33.3%)	8(24.2%)
②変化なし	21(25.9%)	12(25.0%)	9(27.4%)
③子どもの表情がよくなった	20(24.7%)	12(25.0%)	8(24.2%)
④片親と子どもだったのが家族全員のいる絵になった	13(16.1%)	5(10.4%)	8(24.2%)
⑤動きのある楽しい親子の絵になった	3(3.7%)	3(6.3%)	0(0%)
計	81(100%)	48(100%)	33(100%)

のとなっていた。

謝辞

本研究を行うについて次の方々のご協力をいただいたことを報告し、感謝の意を表します。

河内中学校教諭 貫名弘恵

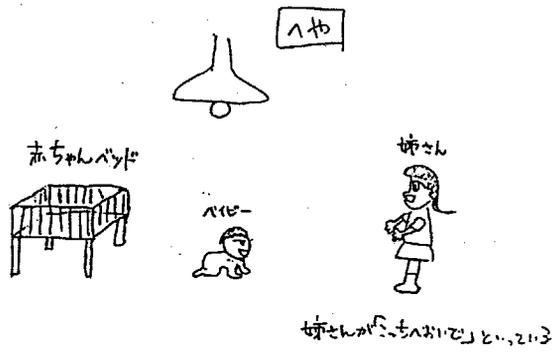
河内町福祉保健課保健婦 林由美子

河内町福祉保健課保健婦 松田麻優子

豊田高等学校教諭 平本菊美

安芸津町福祉課保健婦 林裕美

図1 ふれあい体験前



ふれあい体験後



図2 ふれあい体験前



ふれあい体験後





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

乳幼児とのふれあい体験学習の前後に描画テストを実施して、体験学習の効果を判定できるかどうかを調べるのが目的である。

まとめ

中学生・高校生の約 75%の描画が、ふれあい体験前に比較して後にはよりポジティブで楽しいものとなっていた。